



中学生団員6名で構成された三好市姉妹都市交流親善団9名が、11月2日から8日までの7日間、姉妹都市であるアメリカ合衆国オレゴン州ザ・ダルズ市を訪問しました。

ザ・ダルズ市はロッキー山脈に源を発するコロンビア川下流域にあり、広大な渓谷の続く場所です。北アメリカで最も古くから居住が始まったところと言われています。

ザ・ダルズ市とはこれまでの交流を通してお互いの文化を体験し、認め合いながら友情を築いてきました。今回の派遣事業は、長きにわたって多くの友情を育んできた交流とともに喜びあい、さらなる友情が生まれる訪問となりました。

姉妹都市交流親善団 交流体験記

お世話になったスパッツ夫婦。おしゃれなリビングで話したこと、大理石のキッチンでチョコレートブラウニーを焼いたこと、本当の家族のように迎え入れてくれて感謝しています。

池田に到着したとき、出発の時にはなかった物を持って降りました。スーツケースには思い出の品がいっぱい。携帯には新しい友達のアドレスと写真。ホストファミリーのダンとミシェルが持たせてくれた重いバックには目的だった本全巻。ダルズから先生と母に送ったエアメールが早く着くといいなあという期待。ダルズで過ごした五日間全てが思い出で、起こった全ての事を一つ残らず大切にしていきたいです。

(中学生団員 吉井夢女)

アメリカという行ったことのない国で一週間滞在したことは、これから先一生忘れないだろうと思うほど良いものでした。それぞれの国で文化が違って、互いに日本に住んでいる私たちは、日本の文化を伝え続け、誇り

を持つて生きるべきだと思いをもちました。

今回の滞在を通して、視野をたくさん広げることができ、それぞれの文化を尊重することの大切さを学ぶことができました。本当に貴重で良い体験をすることができました。本当にありがとうございました。

(中学生団員 森本朱音)

いろいろな場所に行つて、いろいろな体験をしたこと全てが新鮮で刺激的でした。向こうの学校はともフリースクールで、高校生は自分の車で登校していて、日本との違いに驚かされました。

この一週間で、日本とアメリカの文化や習慣の違いを自分自身で体験することができました。そこでアメリカの良さもたくさん見つけたし、日本の良さにも改めて気付くことができたと思っています。また、言葉が違っていても、コミュニケーションを取ろうとする意欲さえあれば、互いの気持ちを伝え合うことはできるのだと実感しました。

(中学生団員 石川佳果)

小学校では、自分から積極的にコミュニケーションを取らなければいけなかった。一生懸命自分の意思が伝わるように努力しました。折り紙で鶴と飛行機を教える際には、手順なども説明する必要があったので、細かい作業のところが伝えるのが難しかったです。どんどん鶴の形になっていく折り紙を見て、子どもたちは歓声に近い声をあげてくれました。飛行機が完成した時は、空中に飛ばして遊んでくれました。子どもたちの新鮮な反応を見て、とても嬉しかったです。

いつかザ・ダルズ市の方から来た時には、温かくおもてなしをしたいです。

(中学生団員 山本理紗子)

アメリカの文化としてすごく良いと感じた、日本にはない文化は、「あいさつ」についてです。例えば、お店のレジに行くと、必ず店員さんは「Hello」や「How are you?」などと、笑顔で必ずあいさつをしてくれました。それはどのお店に行っても同じで、そのようなあい

ホームステイを通して、日本とアメリカとの違いを見つけることができました。それは言葉です。

(中学生団員 馬宮織絵)

例えば建物に入る時、すぐ前を歩いている人が扉を開けて待つてくれると、日本の大半の人はお礼の気持ちを表す言葉として「すみません」を使いますが、アメリカでは理解されません。私も同じような経験がありました。私が「すみません」と言うと、相手の人はムッとした顔をしました。「すみません」という意図が伝わらなかったのです。その時、お礼の言葉を表すには「ありがとう」と言わなければならないことを学びました。

(中学生団員 田村侑里菜)

